

## 矢作川流域圏懇談会 第1回地域部会 議事概要

日時：平成23年1月26日(水) 9:00 ～ 11:45

場所：愛知県西三河総合庁舎 10階大会議室

1. 開 会 (司会：国土交通省中部地方整備局豊橋河川事務所 副所長 今津実)

2. あいさつ

国土交通省中部地方整備局豊橋河川事務所 所長 畠山慎一

3. 設立総会以降の活動報告

【事務局より説明】意見等は特になし

4. 矢作川流域圏の課題(修正)について

事務局より説明、意見は下記の通り

【東京大学愛知演習林 蔵治】

- ・ 資料4の3ページについて、治水の8番の課題の大分類について、「洪水流出の遅延、抑制のための平準化作用機能、蒸発散作用の維持」とあるが、平準化作用と蒸発散作用という2つの作用が併記されている主旨を考慮し、平準化作用機能の「機能」は削除したほうがよい。

➤ 御指摘の通りなので、「機能」は削除させていただく。

5. 地域部会の進め方について

事務局より説明、意見は下記の通り

【個人 篠原】

- ・ 資料5の2ページにある「課題の見える化イメージ」について、「地域の課題・社会的背景」は、1番左が「社会的背景」で、2番目が「地域の課題」となるのではないか。地域の課題に対する現象として「山の荒廃」と考えたいが差し支えないかお教えいただきたい。

➤ 本日の見える化はイメージであり、事務局で検討したものを次回の市民会議で提示し、その際にまた御意見をいただきたい。

6. 地域部会役員の選出

各部会の役員として、以下の方々が選出された。

[山部会]

座長：東京大学

愛知演習林長

蔵治光一郎

副座長：鳥取大学地域学部

非常勤講師

丹羽健司

[川部会]

座長：大同大学工学部都市環境デザイン学科

准教授

鷺見哲也

副座長：愛知工業大学工学部都市環境学科

教授

内田臣一

[海部会]

座長：豊橋技術科学大学建設工学系

教授

青木伸一

副座長：名城大学大学院総合学術研究科

特任教授

鈴木輝明

( 休 憩 )

## 7. 部会別討議

グループに分かれて討議を実施（検討結果は8. を参照）

## 8. 各部会の討議発表

### 【山部会について東京大学愛知演習林 蔵治座長より発表】

- ・副座長は、鳥取大学の丹羽先生に担当していただくことになった。
- ・当面取り組むべき課題が大きく2つに整理された。
- ・1つは、人にかかわる部分である。どのような計画を作っても、それを誰がやるのか、ということが常に問題となる。誰もやる人がいない計画をいくら立てても、絵に描いた餅にしかならない恐れがある。山に住み、農林業に従事する担い手が年々厳しい状況になっていっているなか、この対策として、下流の方々に上流に来てもらうことや、上流と下流の人たちが互いに理解を深める必要がある。
- ・上流の方が持っているいろいろな知恵とか、あるいは木材を含めたいろいろな資源を下流の方に買っていただくという流域内の循環を通じて、上流の山の人たちが自立して、持続的に経済的にビジネスをやっていき、そこに暮らしていけるものを確立していくことが大事。
- ・もう1つは、森に関わる部分で、特に人工林について最近に必要な手入れが余りされておらず、必ずしも健康な森になっていない現状があり、そのことが、森から流れてくる川の水量、あるいは山が崩れるかどうかで防災上の問題、土砂の流出の問題と密接にかかわっていることから、森、特に人工林を重点的に課題として取り上げようというところまで合意形成ができた。

### 【海部会について豊橋技術科学大学 青木座長より発表】

- ・副座長は、名城大学の鈴木先生に担当していただくことになった。
- ・課題として、3つ挙げた。
- ・1つ目は、干潟の問題として、土砂の管理の課題がある。山から海へ流れ出てくる土砂をどのように管理するのか、海側でどういう土砂を必要としているのかということを発信していくことも重要ということで、土砂の管理の課題がある。
- ・2つ目は、生物との関連で、淡水の流入が非常に重要ということを考慮し、地下水なども含めて、淡水の量と質の問題を課題として挙げられた。川からどれだけの淡水が出てくるのか、また、量だけでなく、質がどうなのかということも含め、海から見て、河川からのどういう流出が求められるのかを発信していこうというのが2つ目の課題であった。
- ・3つ目は、ごみの問題。利用に関連しますし、海のよさにも関連するごみの問題を3つ目の課題として挙げようということになった。
- ・3つの課題とも、山から出て海に流れてくるという流れのある、つながりのある問題なので、流域圏で議論する課題としてはふさわしいと考えている。

### 【川部会①について大同大学 鷲見座長より発表】

- ・副座長は川部会②の愛知工業大学の内田先生に御担当いただくということで、了解を得られた。
- ・大きく3つの課題のグループとして報告させていただく。
- ・1つは、地先としての川と地域との関係をどうするかという課題のグループ。例えば親水性の問題を例にすると、川を利用したい人や地域で川の環境学習でアプローチしたいと思っているがアプローチができない問題がある一方で、学校では「川に近づくな」と言ったりして、結局、どちらか分からない状況になっているが、そういった親水性の環境をどれだけ整えているかという問題がある。
- ・また、地域における川の維持管理、ごみの問題などをどうするかということ。
- ・川があふれたときに市民は治水に対する意識をどう持っているのか、地域のハザードマップをどう見ているのかといったことに対し、行政が出している情報は全然わからない、ちゃんとわかるようにしてくれということもあり、地先としての治水の問題がある。
- ・2つ目は、川を理解すること。上下流環境も含めると、水が実際にどこに行き、我々の社会基盤としてどういうふうに使われているのか、どれぐらい我々をサポートしているのかということを理解しないまま環境だけの発言をすとか治水だけの発言をすといった局所的な議論になりがちなので、まず川全体をみんなが理解しないといけない、これについてどういうふうアプローチしていくのかということ課題として挙げてはどうか。
- ・3つ目は上下流問題として、特に水の問題が出た。利水者から見れば、どういうふう水コントロールしているか、我々はどれだけ節約しているということも含めて、理解してもらわないままいろいろな御意見をいただくことが問題との意見もあった。一方で、ほかの人たちから見れば、そうした情報がよくわからないといったところがある。そうした情報共有も含めて、水と土砂に関する上下流関係の課題はやっぱり軸になると考えた。

**【川部会②について愛知工業大学 内田副座長より発表】**

- ・川部会②では課題を3つ挙げた。
- ・1つ目は、国、県、市町、河川を管理している主体がいろいろある。この連携を強化していく必要がある。
- ・例えば樹木管理の問題では、市や町が管理しているような中小河川では治水安全度が非常に低いなか、樹木がたくさん繁茂している状況がある一方で、本川の方はもう少し治水安全度が高い。情報をそろえて住民の人に情報が提供されていないことや、管理のあり方をめぐっても、今まで緊密に連携をとってやってきたとは言えない面がある。そういうところを課題にしたらどうか。
- ・2番目は、やはり連携ということが課題になるが、川部会①の1番目の課題とほとんど同じ。まちづくりと川へのアクセスを促進し、町と川とのかかわりを考えていく。そのときに1つ新しい視点として出されたのは、川を観光資源として考えようということ。

- ・ 3番目は、生物の生息場所の確保ということがある。矢作川の川筋で、氾濫原、つまり、出水が起こりにくくなっていることやダムにより、治水上は安全になっているが、川の普段の流れが特定の場所に集中してしまって、昔のように洪水によってできたワンドとか魚が逃げ込めるようなたまりが減ってしまっている。また、生物の生息場所に関しては、在来の生物の生息場所を確保するためには、外来種の問題もあわせて考えないといけない。
- ・ 支川とか中小の河川における多自然型川づくり。これの目的の1つが生物の生息場所の確保ということだと思うが、多自然型川づくりと名打って行われた河川改修の中に問題がある。そういうことを総合的に考えて、生物の生息場所を確保していこうということが課題として考えられた。

## 9. 閉会

- ・ 今年度末には第2回の勉強会（川地域）について実施する。
- ・ 今回の地域部会で出た各部会の「当面3ヵ年で取り組みたい大きな課題候補」について、事務局にて整理のうえ、第2回市民会議等で課題を掘り下げ、流域圏会議を構成するメンバー間での共有を図る。

以上